

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年1月9日(火)

みんなの居場所

明けましておめでとうございます。今年も「みんなの居場所」をよろしくお願いいたします。笑顔をたくさん見せてください。今回の冬休みは、個人的な感想ですが、とても暖かかったです。印象です。地球環境の変化で、いつも違う雰囲気のお正月でした。暖かかったお陰で外出する機会が多くなり、初詣、年始回り、初売り等々、家族で出かけたりして、4日から1週間ほどは通常勤務開始で、一気に業務が一掃です。今年も子供達、保護者の皆様と一緒に、今年こそ一歩進めよう。

卒業期

昨年度も執筆したシリーズを今年もお送り致します。6年生へ向けた卒業前特集として、今回も書いてお話ししたいと思います。

反抗期

毎年の事、正月明けには、新成人のマンナーの悪さが新聞に掲載されます。例えば、式典の最中であるにも拘らず、外に出てスマホ等を介して大声で話していたり、タバコのポイ捨てをしたり、新成人がする行為にはありません。その大人が注意するつもりには話を聞かず、まるで小学校の中学年頃からの徐々とした反抗期が、まだまだ続いているような感じがします。私はこの様な子供(青年)達に共通するものとして、自意識の低さがあつた感じがします。

小学生で中学生の目を見てみまわす。嫌なことを避けて生きている人、その部分を突かかわる人、何を言っても黙ってしまっている人、更に話を聞いて涙ぐんでいきます。精神的にまだ未成熟な時期で、仕方がないようなのもありますが、叱りつけ、壁を越える経験が積み重なると、少しずつ成長していくのです。

6年生は、あつた月程で中学生となりますが、数科授業は専門の先生が授業をされ、小学校のまわりの先生方が子供個人の個性を伸ばすべく、いろいろな指導を行っています。「何がどうあるか」「なぜか」「どうしてか」の人は第一印象が良かった。「何を基準に判断しているのかを尋ねると、それは話で振る、受け答え、態度、身振りのなごはらうか。中学校、高校と成長していく中で、相手、時間、場所、目的などに合わせて行動を学んでいかなければなりません。中学校はその第一歩です。かといって人の様子はわかりづらく、人に合わせた態度を求められるようになります。信用がなくなってしまうと、人に合わせた態度を求められるようになります。それが学習生活の難関の一つです。大変難しいことです。

冬休み前の集まりで「カッパの生活(半表紙)を子供達に読んで聞かれました。いじめ、決まりを守らないうわがまま、いじわりや悪くカッパの悪い生き方だと言っていました。とてもいい悪いのいいのいいのカッパの生き方だと言った年表の方なのか。単純に簡単なことです。

最近の6年生の話題で「中学校の部活は何が入るのか」等の話題が挙がっています。「中キマッ」を家庭でも話して卒業に向けて親子の対話の時間を増やして頂きたいです。中学時代は「難しい時期」でもありますが、爆発的なエネルギーを持つ時代でもありますが、楽しみながら過ごしてほしいです。

シリーズ「自分を語る」#145

今年、平成29年度の教頭2年目の10月には自分を含めた方面で書いてきた色々なことを振り返るつもりになりました。平成29年度は何か一つ仕事を済ませようと思いついたのがきっかけで、何をやるにしても校長先生に尋ねてからやるという真意でした。失敗することが怖いのですが、だから主体的な判断ができないのです。この感覚がいつの間にか自分でも変わってしまっているのかも初めて挑戦する仕事で緊張感や不安感があつた当然ですね。しかし、教頭職2年目に入り、そこからはもう一言も言わなくてもいいです。当時、子供達にも保護者の皆様にも地域の皆様にも、主体性や協働性、創造性を求め始めていたから、我々が職員もそのように変わらなければなりません。率先垂範するのが管理職でもあります。新しいことに挑戦して進んでいくのですか。...と、偉いことを書いていますが、自分のPR活動は全然ダメです。

平成28年度は熊本地書の影響で中止になっていたPTAの懇親会の折、執行部の方から「新しく来た先生方は何か話を披露して欲しい」と、教頭先生はなかなか今年も書いて欲しい。「いやいや」取り敢えず書道かなと単純に考え、懇親会の会場で書道の道具一式を持ち込みました。毛筆、墨、筆、紙は色紙、半紙、半切(一般的な半切用紙)、2x8(縦書き用)、何れもその状態のまま、スライダからお話しするつもりです。教頭の澤田です。今日は、皆んなからのコメントをいただいたので、本音を話したいと思います。

本音がどういふ事だったのか、私自身が書道をしていくという人は半分以上の人が知らなかったため、最初に「フエルト」は校長先生でした。「玉座がなければ光無」「これは、校長先生の座右の銘です。私は「一筆を一杯ひいて揮毫開始。結構みなさんびっくりされてしまいました。実は師範免許を取った後、中央書壇の大きな展覧会を戦いの場にして、そこで切磋琢磨する人たちが権書から行書、草書、篆書、隷書に至るまで、一筆で書いていくのが普通でした。私も同じように書いていきました。生のハローマンズは人を引き付ける力があります。しかも書道や言ひは権書が綺麗に書いていくのが最低条件です。それを人前でも書いていける人は一人前です。たまたまな人から「私は書道をやっています」と、権書が書けなりました。「プロの書道家でなくてもいい。権書を習って、私に教えてほしい本末斬断な話です。多くの方が綺麗な文字を書きたいと願っているのは「権書」です。

懇親会会場から次々としてフエルトに反応する。毛筆の上でフエルトの筆、一枚書けば次のフエルト...。この時の酒は頂戴ですが、殆ど食入に終わってしまいました。まあ、多くの方々とのお付き合いで、殆ど食入に終わりました。「この頃でいいか」「教頭先生、習字教えたんですか。」「と言われるようになります。いっしょに書いています。もう一人位揃えたいと思っています。長洲小学校でもお話ししたいので、ぜひとも参加してください。

※ 「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の可・不可)